

講義名	カウンセリング				授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時限		前期 木曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
カウンセリングは、対話を中心に行われる心理的援助を目的とするものであり、病院、カウンセリング機関、企業、学校や福祉機関など様々な領域で用いられている。同時に、カウンセリングが必要とされる応答技法は、心理的援助だけではなく、接客や日常生活におけるコミュニケーションの基礎としても活用可能である。 本講座では、カウンセリングに必要な基本的知識と技法を解説する。また、カウンセリングの実感を学んでいただくために小グループに分かれての簡単な実習を行う。特にどのような姿勢で相談を受け、どのように受け答えをしていけばいいのかについて重点的に学習してもらう。 また、産業現場でのメンタルヘルスの問題について紹介し、どのようなカウンセリング対応がなされているのかについても学習してもらう。						
到達目標						
カウンセリングの現状について理解できるようになる。 初回面接の仕方について理解できるようになる。 初回面接の報告書が作成できるようになる。 カウンセリングの基本的な技法を使って話を聞くことができるようになる。						
提出課題						
課題がある場合は授業内で説明します。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
中間テストについては、テスト実施の翌週にテスト返却と解説を行います。						
評価の基準						
中間テスト（40％） 定期試験（60％） 中間テストは2回行うが、中間テストを受験できなかった場合は、定期試験を100点満点として最終成績とする。						
履修にあたっての注意・助言他						
本来は講義の後半はグループワーク中心の授業であるため、積極的に授業に参加してください。						
教科書						
. 使用しない。						
. 必要な資料を適宜配付する。						
参考図書						
. 心理学マニュアル面接法。						
保坂 享・中沢潤・大野木裕明						
北大図書館						

その他			
適宜資料を配付します。			
授業計画			
第1回カウンセリングの基礎知識 予習：「カウンセリングとは何か」を調べてノートにまとめ、その際に疑問点が生じた点についてまとめ、授業時に解決できるように準備しておくこと。また授業でどのようなことを学ぶことを期待しているかについてまとめておく（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。その際に、出てきた疑問について、まとめておき、次の授業時に質問できるようにしておくこと。（120分）			
第2回：初回面接の基礎知識 予習：カウンセリングの「初回面接」について調べ、まとめておき、その際に疑問点が生じた点についてまとめ、授業時に解決できるように準備しておくこと。（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。その際に、出てきた疑問について、まとめておき、次の授業時に質問できるようにしておくこと。（120分）			
第3回：初回面接の実感 初回面接における観察視点 予習：前回の授業で学んだ内容から推測される「初回面接における観察視点と注意点」について自分なりに考え、まとめておくこと。（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。その際に、出てきた疑問について、まとめておき、次の授業時に質問できるようにしておくこと。（120分）			
第4回：初回面接の実感 情報収集のスキル 予習：配付された資料を見て、ポイントを確認し、分からない語句を調べておくこと。また、疑問点があればそれについてもまとめておくこと（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。その際に、出てきた疑問について、まとめておき、次の授業時に質問できるようにしておくこと。（120分）			
第5回：初回面接の実感 報告書作成 予習：配付された資料を見て、ポイントを整理し、分からない語句を調べておくこと。また、疑問点があればそれについてもまとめておくこと（120分） 復習：授業に視聴したインテーク動画のビデオのメモを見直し、報告書を作成させる（120分）			
第6回：カウンセリングにおけるクライアントの変化 予習：「人間関係心理学のクライアントのパーソナリティの表層」について調べ、まとめておく。また、分からない点については、書き出して、授業時に解決すること。（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。その際に、出てきた疑問について、まとめておき、次の授業時に質問できるようにしておくこと。（120分）			
第7回：カウンセリングにおけるクライアントの変化 予習：前回の授業で学んだ内容を再度自分の言葉でまとめ、取り扱った事例を授業時に説明された理論を用いて「クライアントの変化」をせつめいすること。（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、授業内で取り扱った事例について、説明できるようにしておくこと。（120分）			
第8回：基本的応答技法 クライアントの話を理解する 第9回：基本的応答技法 開かれた質問と閉ざされた質問 第10回：基本的応答技法 応答する際のポイント 第11回：基本的応答技法 感情、内容の反射 第12回：基本的応答技法 いらいかえ、感情の明確化 第13回：基本的応答技法 基本的応答技法を使用した実習 第14回：カウンセリングにおける応答技法（まとめ） 【第8回～第14回の授業の予習と復習について】「復習」が重要になってくるため、復習に重点を置き、以下の点について十分に復習をしておくこと。授業で説明された技法について、資料とノートを見返し、まとめ直し、自分なりに、授業内で事前問題が出る場合があるため、その際に予備についても行うこと（各回60分程度）			
第15回：産業現場での諸問題と相談援助活動 予習：産業現場のメンタルヘルス支援について調べておくこと。（120分） 復習：授業資料とノートを見返し、重要なポイントを整理し、説明できるようにしておくこと。また、全体の授業を通じて（120分） 授業計画は受講者の理解度に応じて多少の変更を加えていく。			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
到達目標 を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」や「コミュニケーション能力を身につけ、それらを、ビジネス、援助に実践的に活用すること」や求める「人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用すること」に貢献することができる。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
キャンパスクロスや学習支援システム等を活用し、授業内で提出内容を受講生と共有しコメントを行う時もある。			
実務経験の有無及び活用			
「実務経験あり」 授業で学んでいたカウンセリングの基本的なスキルを、病院臨床のカウンセリングにおいて活用している。			
備考			